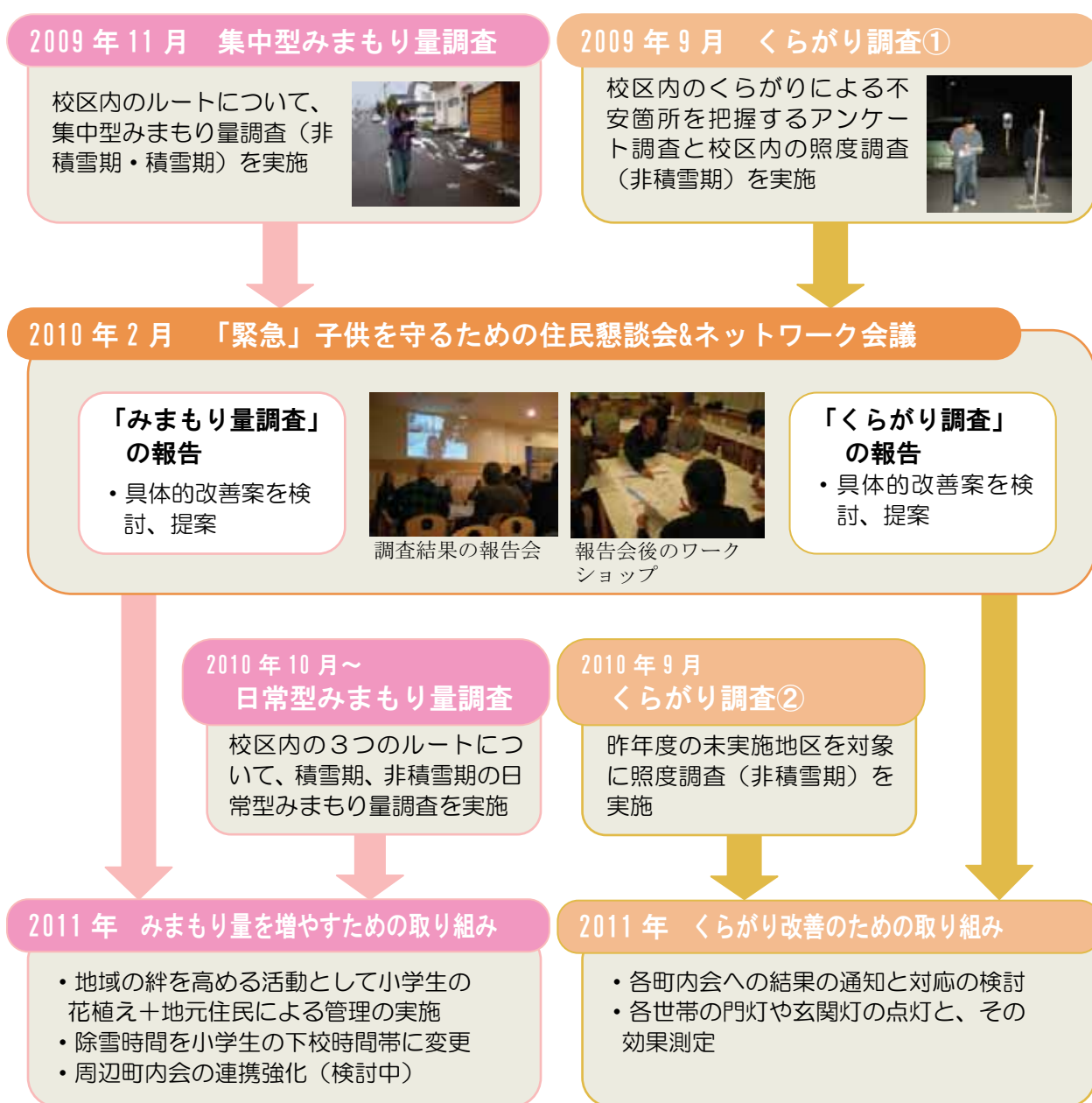


IV その後の取り組み

1. 旭川市近文地区

みまもり量調査とくらがり調査の結果は、小学校PTA、高校生ボランティア、近文あい運動参加者、警察、行政などが参加する「緊急」子供を守るための住民懇談会&ネットワーク会議」で報告され、あわせてワークショップ形式で今後の対応・対策等について意見交換を実施しました。調査の結果を受けて、下記の取り組みが行われています。



みまもり量を増やす取り組み

近文地区では、「最終的には、特別なみまもり活動をしなくても安全安心な地区にしたい」という思いが活動参加者で共有されています。

このため、今回の調査結果を受けて、地域の絆を高めるための長期的な方策として下記のような取り組みが行われています。



●小学生の花植え＋地元住民による管理

通学路の街路樹の植栽帯に、小学生が花植えを行い、地域の方が水やり等の管理を行っています。これにより、花づくりをきっかけにした小学生と地域住民との交流や近所づきあいが盛んになってきています。

●除雪時間を小学生の下校時間帯に変更

調査の結果、除雪をする人が最も多い時間帯が、小学生の下校時間と1時間程度ずれていました。除雪の時間帯については、変えてもいいという住民の意見が多かったことから、小学生の下校時間帯に合わせる事が提案されました。



完成した街路樹下の植栽帯

●周辺町内会の連携強化

みまもられるべき子どもが多い地区でみまもり量が低く、逆にみまもられるべき子どもが少ない地区でみまもり量が高いという結果を受けて、周辺町内会が連携して互いに見守りあう必要性が認識されました。

地域の声

～近文地区社会福祉協議会会長・西出元さん～

2006年6月から児童の登下校を見守る「近文あい運動」を行っています。今回の調査は、PTAや学生など大勢の方々に協力をいただきました。集計では専門家の協力を得て、大変助かりました。



みまもり量の少ない場所でみまもりを行うなど、調査の結果を今後のあい運動に活用していきたいと考えています。

コラム：歩行者専用道路におけるみまもり量調査

筑波研究学園都市の「研究所・公園地区」にある緑の深い静かな歩行者専用道路（通称「ペデ」）のみまもり量について場所別、時間帯別に調査しました。

一般的に、歩行者と車の動線が分離するように計画されたペデは、犯罪不安を喚起する空間として捉えられていますが、みまもり量調査により、次のようなことがわかりました。

- ・いずれの時間帯でもみまもり量が 1.0（100mで一人のすれ違い）を超えており、一般的な住宅地と比べても決して低くありませんでした（図1）。
- ・特に行動属性では、近年ブームの自転車通勤やジョギング等の運動利用が多く、自動車と交わらずに通行できるペデの優位性が活かされていました（図2）。
- ・個人属性では、中学生や女性が少なからず見られますが、日没後、その割合が大幅に低くなる区間がありました（図3）。
- ・ペデと沿道施設との敷地境界部に 10m以上の緑地帯があることに加えて、緑地帯等の樹木が生長して見通しを妨げているため、沿道活動者はほとんど見られませんでした。

■調査日時

期間	2010年7月の6日間
時間	17:30～20:00（4回）

■みまもり主体の属性

個人属性	小学生、中高生、一般成人、高齢者
行動属性	歩行・移動、歩行・運動、歩行・ペット、自転車、沿道活動
性別(3-6日目)	男性、女性

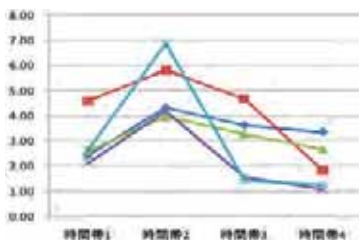


図1. 区間別・時間帯別みまもり量

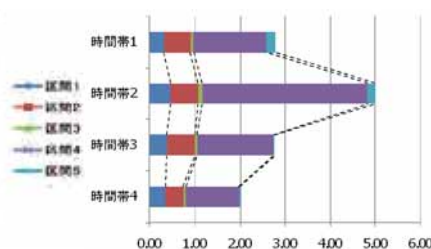


図2. 行動属性別・時間帯別みまもり量

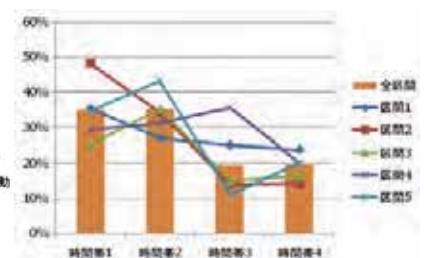


図3. 時間帯別・区間別女性比率
(沿道活動は含まず)

出典：歩行者専用道路におけるみまもり量調査報告 筑波研究学園都市の歩行者専用道路を対象として 樋野公宏、石井儀光、土方孝将、樋野綾美、雨宮護、都市計画報告集 No. 9-2

コラム：見守りフラワーポット大作戦の実践とその効果～愛知県安城市篠目町～

「見守りフラワーポット大作戦」は、個々の負担を小さくしながらも、より多くの住民がより自然な形で参加できる防犯活動として考案された手法です。あいさつや声かけなどの自主防犯活動が行われている住宅地（愛知県安城市篠目町）での取り組みを紹介します。

各家庭が登下校時間帯を中心に、玄関先などの戸外でフラワーポット（以下、FP）への水やりなどしながら、子どもたちをみまもっています。水やりを通じた自然な監視の目の増加にあわせて、ご近所同士の会話など地域コミュニティの活性化が進んでいます。

■見守り FP 大作戦のシステムイメージ



花植え作業の様子



路傍に置かれたFP



FPにさしたラベル



完成したFP

取り組み開始から3か月後に行ったアンケート調査によれば、参加者の2割は従来の防犯活動未経験者でした。この取り組みによって楽しく、気軽な防犯活動として参加者が拡大しています。

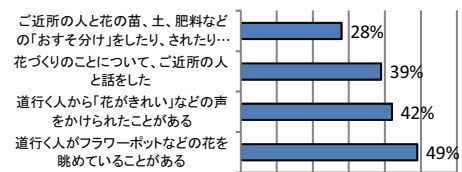
○FPをめぐる出来事としては「近所の人と話した」が約4割

○コミュニティの変化については6～7割が肯定的な回答

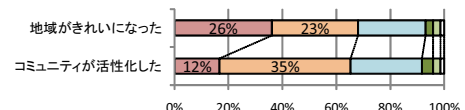
○参加者自身についても「子どもの防犯に対する意識が高まった」「地域に対する帰属意識（わが町意識）が高まった」が8割程度

○雨天日を除くと、毎日平均して参加者の50～60%が水やりをしています。

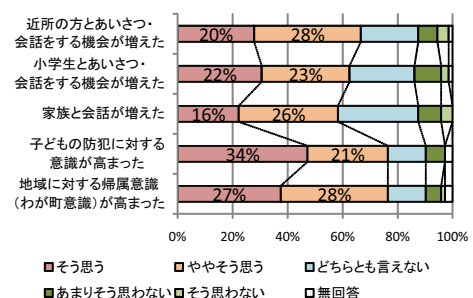
■FPをめぐる出来事



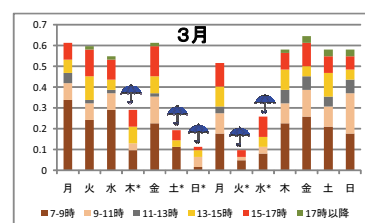
■コミュニティの変化



■参加者自身の変化



■水やりの回数（回/人・日） 傘印は雨天日



出典：樋野公宏（2010）「花づくりを通じた見守り活動の実証実験－安城市における「見守りフラワーポット大作戦」を対象に－」日本建築学会住宅系研究報告

くらがり改善のための取り組み

●各町内会への結果の通知

照度調査の結果を知らせ、対応策を検討しました。町会ごとの優劣をつけることにならないよう、配慮が必要です。

●各世帯の門灯や玄関灯の点灯とその効果測定

街灯設置には経費が必要となることから、すぐにはできることとして、隣近所が協力し門灯や玄関灯を中高生の帰宅時間となる 20 時頃まで点灯する取り組みが行われています。

さらに、その効果を直接感じるために、夜間の現地見学や照度測定が提案されています。

●中学生、高校生へのアンケート調査の実施

ネットワーク会議のメンバーである中学生、高校生に対して、不安箇所を把握するためのアンケート調査を実施することが検討されています。

なお、近文地区でのくらがり調査を受けて、市内他地区や他市でも調査が検討されています。

コラム：灯りのいえなみ宣言地区での取り組み

～兵庫県神戸市学園東町 6・7 丁目～

ニュータウンの戸建住宅地である学園東町 6・7 丁目地区では、日没から午後 10 時まで各戸の門灯や玄関灯の点灯を呼びかける「灯りのいえなみ宣言」を行っています。「宣言」に至るまでに、次のような活動を行いました。

●たそがれウォーク

日没ころに地域住民が「わがまちの安全点検」として、暗がり、死角、空き地などの問題点を洗い出しました。

●灯りウォッチング

専門家の協力のもと、カラフルな灯かりをつけたり、一斉に門灯を点灯したりしました。



たそがれウォークの様子



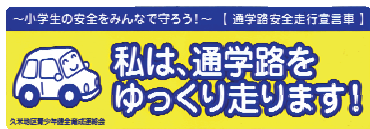
灯りウォッチングの準備の様子

2. 松山市久米地区

車の通り抜け調査と身近な公園調査の結果は、改善に向けた専門家からの提案と合わせて、地区の青少年健全育成連絡会で報告されました。

調査の結果を受けて、下記の取り組みが行われています。





配布されたステッカー（マグネット型）

車の通り抜け対策の取り組み

通り抜けの問題については、すぐにできることとして、“ゆっくり走ろう運動”を始めています。

この取り組みは、協力者の車に“私は、通学路をゆっくり走ります！”と書かれたマグネットを貼ってゆっくり走ってもらうとともに、後続のドライバーにも周知するというねらいがあります。

今後は、ステッカーを貼った車のデモ行進の実施なども検討されています。

また、中長期的な取り組みとして、歩行者優先の生活道路として位置付けるため、県道から市道への移管が検討されています。

地域の声

～久米地区青少年健全育成連絡会会長・安永耕造さん～

2005年からの「安全マップづくり」を通して、地域の危険な所を少しずつ改善する努力をしています。「通学路はとにかくゆっくり走ろう」という意識づけをするための啓発ステッカーを作り、ゆっくり走ろう運動とみまもり隊活動を継続して行っていきたいと思っています。



福音公園の改善の取り組み



高校生のワークショップの様子



「柱に絵などを」という意見が多く出された

福音公園については、青少年健全育成連絡会で調査結果を報告し、松山南警察署の白バイパトロールのルートに入れてもらいました。

また、高校生ボランティアの協力も得て公園調査、ワークショップによるアイデア出しを行い、小学校と町内会長、子ども会、公民館による「福音公園を考える会」に提案を行いました。具体的には、絵を描けるパネルを公園内の柱（橋脚）に設置し、アートを施すことでみまもり量や住民の関心を高めていくという取り組みです。

2011年2月以降のワークショップでは、描くテーマや描く人、運営について話し合いが行われ、高校生たちが考えた絵柄と児童たちの手形600枚を並べたアートパネルを作成しました。

3月26日、完成したパネルは福音公園に設置されました。アート制作中に発生した東日本大震災を受け、被災者への応援メッセージを寄せ書きしたパネルも合わせて設置されました。



福音公園でのアート設置の様子（右写真は東日本大震災被災地へのメッセージパネル）

地域安全マップの取り組み

■2005年度 安全マップ



■2007年度 安全マップ (配布用)



■2008年度 安全マップ (配布用)



■2009年度 安全マップ (配布用)



地域安全マップづくりは、2004年度から毎年度継続的に行ってきています。

マップづくりは、久米地区青少年健全育成連絡会を中心に、子どもから大人、小中学校やPTA、地域組織、地元大学生や市職員のボランティアなど多様な主体の協働により進められています。

地域安全マップは防犯の目的だけでなく、まちのいい所探しや交通安全などのテーマにも広がっています。

今後もマップづくりを継続的にし、安全・安心なまちづくりが進められることが期待されます。

地域の声

～久米地区久米公民館運営審議会委員長・仙波 英徳さん～

●地域安全マップが久米地区にもたらしたもの

子どもの地域参加が進み、また地域住民も子ども関連の事業に参加することになり、子どもから大人まで一緒に関われる場ができました。

安全・安心づくり、まちづくりの実践を通じて、学校と公民館の連携が進み、情報の共有化や地域コミュニティの強化が進みました。

また、非行や不登校の減少など、子どもに落ち着きが見られるようになりました。

参考：警視庁(2009)「万引きに関する調査研究報告書」

http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/seian/manbiki/manbiki_chosa.pdf

●なぜうまくいったのか

マップというツールが社会教育を「見える化」し、地域の人を受け入れやすかったためです。

防犯に対する関心の高さからマップづくりへの参加、理解が進み、マップづくりで発見した「ネタ」を多様な活動につなげています。

また、重点課題の解決が地域のネットワークにつながり、それが次の課題解決の力になるという好循環が生まれています。

